

平成24年行政事業レビューシート (復興庁・経済産業省)									
事業名	イノベーション拠点立地推進事業（復興関連事業）		担当部局庁	復興庁 経済産業省産業技術環境局 経済産業省製造産業局		作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度～		担当課室	統括官付参事官（予算会計担当） 研究開発課・大学連携推進課 非鉄金属課		尾関 良夫 福島 洋・佐藤 文一 星野 岳穂			
会計区分	平成23年度：一般会計 平成24年度：東日本大震災復興特別会計		施策名	1. 経済成長					
根拠法令 (具体的な条項も記載)			関係する計画、通知等	新成長戦略（平成22年6月18日） 東日本大震災からの復興の基本方針（平成23年7月29日）					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	震災等を契機とする経済状況の悪化により、研究開発投資の大幅に縮小している中、研究開発拠点の整備等を支援するとともに、イノベーションを支える産学官の連携を促進し、我が国で開発された新たな技術を実用化に結びつけることで、新しい市場と産業・雇用を創出していくことを目的とする。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	基金を活用して、民間企業や産学連携等が行う、研究開発環境の整備や産学官連携の枠組みの構築等の技術イノベーションに係る基盤の整備等に対する支援を行う。 ※24年度は復興庁で一括計上し、経済産業省で実施する事業。								
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託・請負 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ 交付 ☐ 貸付 ☒ その他								
予算額・執行額 (単位:百万円)			21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求		
	予算の状況	当初予算	-	-	-	14,000(復興庁計上)		-	
		補正予算	-	-	35,000(経済産業省計上)	-			
		繰越し等	-	-	-	-			
		計	-	-	35,000	14,000		-	
	執行額		-	-	35,000				
	執行率(%)				100.0%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)	
	【先端技術実証・評価設備整備費等補助金】 追加的産産設備投資創出効果の推計値 (誘発される研究開発投資により新技術の実用化を加速し、補助事業終了5年後に、補助金交付額の2倍程度の、事業化のための追加的産産設備投資の創出効果を期待。)		成果実績						
			達成度	%					
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)	
	【希少金属使用量削減・代替技術開発設備整備費等補助金】 追加的産産設備投資創出効果の推計値 (誘発される研究開発投資により新技術の実用化を加速し、補助事業終了5年後に、補助金交付額の2倍程度の、事業化のための追加的産産設備投資の創出効果を期待。)		成果実績						
			達成度	%					
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)	
	【産学連携イノベーション促進事業】 新たな取り組みを行う産学連携・共同研究 コンソーシアム5拠点の自立化		成果実績						
			達成度	%					
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込	
	【先端技術実証・評価設備整備費等補助金】 補助金により誘発された投資額 (補助金交付額に対して、2倍程度の研究開発投資の喚起を目指す。)		活動実績 (当初見込み)			()	()	()	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込	
	【希少金属使用量削減・代替技術開発設備整備費等補助金】 補助金により誘発された投資額 (補助金交付額に対して、2倍程度の研究開発投資の喚起を目指す。)		活動実績 (当初見込み)			()	()	()	

活動指標及び活動実績 (アウトプット)		活動指標			単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
		【産学連携イノベーション促進事業】 ・新たな産学連携・共同研究の枠組みとなる計画を5本策定 ・産学連携・共同研究コンソーシアムを5拠点創設	活動実績 (当初見込み)				()	()	()
単位当たりコスト		【先端技術実証・評価設備整備費等補助金】0.5(円/円)	算出根拠	【先端技術実証・評価設備整備費等補助金】補助金により2倍程度の研究開発投資の喚起を目標としているため。					
単位当たりコスト		【希少金属使用量削減・代替技術開発設備整備費等補助金】0.5(円/円)	算出根拠	【希少金属使用量削減・代替技術開発設備整備費等補助金】補助金により2倍程度の研究開発投資の喚起を目標としているため。					
単位当たりコスト		【産学連携イノベーション促進事業】800,000(千円/件)	算出根拠	【産学連携イノベーション促進事業】事業1件当たりの補助額(執行額/補助事業件数)					
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由					
	事業費(先端技術実証・評価設備整備費等補助金)	10,000		復興庁計上					
	事業費(希少金属使用量削減・代替技術開発設備整備費等補助金)	-	-						
	事業費(産学連携イノベーション促進事業)	4,000	-						
計		14,000百万円	0百万円						
事業所管部局による点検									
	評価	項目			評価に関する説明				
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。							
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。							
	-	利用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。							
資金の流れ・使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。							
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。							
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。							
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。							
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。							
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。							
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。							
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。							
	-	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。							
	※類似事業名とその所管部局・府省名								
-	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。								
点検結果	・公募の結果、多数の応募があり、事業者等からのニーズは高い。 ・審査に当たっては、第三者委員会を活用した厳選な審査を実施し、採択先の決定を行っている。 ・高度な施設・設備の整備においては、複数年度にまたがる可能性の高いが、本事業においては、基金化により年度を超えた柔軟な事業の執行を行っている。								
予算監視・効率化チームの所見									
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)									
補記(過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)									
関連する過去のレビューシートの事業番号									

平成22年行政事業レビュー		平成23年行政事業レビュー	(経済産業省) チェックシート0016
---------------	--	---------------	---------------------

費目・使途
（「資金の流れ」において
ブロックごとに最大の金額
が支出されている者につい
て記載する。費目と使途の
双方で実情が分かるように
記載）

A. 一般社団法人環境パートナーシップ会議（EPC）

費 目	使 途	金 額 (百万円)
その他	基金積み増しにかかる費用	35,000
計		35,000

B.

費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0

C.

費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0

D.

費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0

E.

費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0

F.

費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0

G.

費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0

H.

費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0

支出先上位１０者リスト

A. 一般社団法人環境パートナーシップ会議（EPC）

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 （百万円）	入札者数	落札率
1	一般社団法人環境パートナーシップ会議（EPC）	基金積み増し	35,000	-	-
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					